

駅構内図の構成要素と表現の研究 — 駅の基本的要素に着目して —

佐々木 結那

日本国内での鉄道利用者数は新型コロナウイルスの影響により減少したものの、公共交通機関における鉄道の輸送分担率や鉄道事業者による新型コロナウイルス対策ガイドラインの整備などの理由から、今後は回復していくことが考えられる。また、MaaS(Mobility as a Service)の一環としても鉄道利用の需要が見込まれている。その一方で鉄道の利用に際しては、駅の利用者が駅構内で情報の不足を感じたり、案内表示が不十分なことで困ったりする場面があるという課題がある。

そこで本研究では、駅構内図での情報伝達に着目した。大規模ではない路線の駅を対象とし、駅構内図の基本的な要素とその表現の種類を明らかにすることを目的とする。

調査では、東京都内の大規模ではないと思われる路線が乗り入れる駅の構内図を取り上げ、それぞれの駅構内図の構成要素とその表現を調査した。調査項目は JR 東京駅構内図の構成要素をもとに設定し、構内図上での各項目の有無と表現形式を記録した。調査項目にない表現が見つかった場合はその詳細を記録した。

調査の結果、路線内全駅の構内図に共通して記載されていた要素は小田急小田原線が 12 項目で最も多かった。調査を行ったすべての駅で共通して記載されていた要素には「トイレ」「ホームおよびコンコース」「ホーム到着電車の行先案内」があり、「精算機または券売機」「多機能トイレ」「改札または改札口の名称」はごく一部を除いたすべての駅構内図に記載されていたことから、これら 6 項目が駅の基本的な要素だという可能性が示された。またこれらの要素は、図、ピクトグラム、テキスト、引出し線、点、矢印、囲み略字のうち 1 つ以上を用いて表現されていた。

そこで、これらの要素を東京都内の代表的な駅である JR 新宿駅、JR 池袋駅、JR 東京駅の駅構内図で確認したところ、いずれの駅の構内図にも記載されており、本研究ではこれら 6 項目が駅の基本的な構成要素であると結論づけた。

これらの要素それぞれの表現について比較したところ、同じ鉄道会社のウェブサイト内にある駅構内図ではほとんど違いがなく、異なる鉄道会社が運行する路線では、表現形式やピクトグラムの図案等に違いがみられた。また、調査の過程で「駅構内にあるが構内図には記載されていない要素」がある駅が存在することが判明した。

(指導教員 三波千穂美)